

ソフトバンクグループの特許出願急増に関する 包括的分析: ASI(人工超知能)時代を見据え た知財戦略とエコシステムの全貌

Gemini 3.1 pro

1. 序論: 投資持株会社から「知財の巨大プラットフォーマー」への歴史的転換

ソフトバンクグループ(以下、SBG)は長年にわたり、ビジョン・ファンドを通じた世界的なテクノロジー企業への投資を中心とする「戦略的投資持株会社」として世界の金融およびテクノロジー市場に君臨してきた。しかし、同社の事業基盤および知的財産(IP)戦略において、過去の企業史におけるいかなる事例とも比較し難い、歴史的とも言える劇的なパラダイムシフトが進行している。このシフトの中核にあるのが、人工知能(AI)、とりわけ生成AIおよび人工超知能(ASI: Artificial Super Intelligence)の基盤技術に対する前例のない規模での特許出願の急増である。

ユーザーから提供された特許出願件数の推移データ、および2025年における「1万件出願」に関する市場の噂や公開データ、さらに同社が推進する「Stargate Project」や「10億のAIエージェント」構想に関する膨大な資料を精査すると、SBGの行動は単なる技術の権利保護を目的としたものではないことが明白となる。本分析から浮かび上がるのは、未来のデジタル社会および産業構造そのものの「オペレーティングシステム(OS)」を先回りして特許化し、来るべきASI時代におけるグローバルな知財の独占的プラットフォーマーになろうとする、極めて攻撃的かつ野心的なグランドデザインである。本レポートは、提供されたデータセットと広範な市場動向を統合し、SBGの知財戦略の全貌、その背後にある技術的・財務的メカニズム、そして世界経済や地政学に与える波及効果を徹底的に分析するものである。

2. 定量的データ解析: 特許出願軌跡の変遷と「異常値」の発生

SBGの特許出願活動は、2022年末を境に過去の傾向から完全に逸脱した特異な軌道を描いている。提供された出願件数の推移データは、同社の内部で起きた抜本的な方針転換を如実に物語っている。

2.1. 1991年から2022年前半までの「沈黙の時代」

過去のデータに遡ると、1991年から2019年、さらには2022年の半ばにかけてのSBGの月間特許出願件数は、概ね1件から数件程度で推移しており、極めて限定的であった¹。例えば、1991年12月の4件や、2001年11月の4件といった微小な変動はあるものの、基本的には自社での大規模な研究開発や知財の権利化には注力していなかった。この時期のSBGは、アリババやYahoo!、のちのArmと

いった有望なテクノロジー企業を「発掘し、投資する」資本家としての役割に特化しており、自らが特許権者として市場をコントロールする意図は希薄であったと推測される。

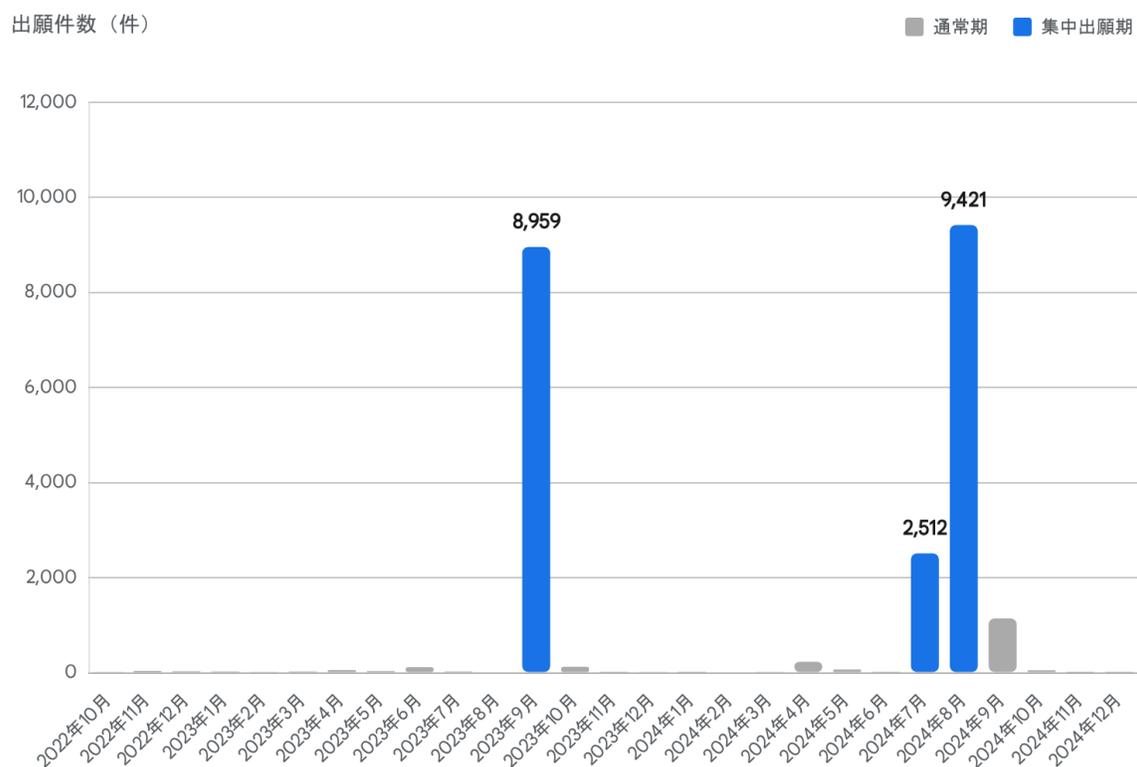
2.2. 2022年第4四半期の転換点と2023年の爆発的急増

しかし、2022年の第4四半期から明確な変化の兆しが現れる。2022年10月に14件、11月に42件、12月に33件と、従来の数十倍のペースで出願が開始された¹。この時期は、OpenAIによるChatGPTの公開など、世界的に生成AIが一般に認知され普及し始めたタイミングと正確に一致している。SBG内部での「AIシフト」が具体的な知財確保の動きとして顕在化したのがこの時期である。

真の「爆発」が起きたのは2023年である。2023年前半は、1月に31件、4月に56件、6月には119件と、月間数十件から100件超のペースで推移し、着実に出願体制のスケールアップが図られていた。そして同年9月、単月で**8,959**件という天文学的な数の特許が出願された¹。特許庁もこの国内出願の急増を認識しており、同庁への問い合わせを通じて、増加した分野が技術進歩の著しいAIを含む情報通信分野であることが確認されている²。

この傾向は2024年に入っても収束するどころか、さらに加速した。2024年4月に233件を記録した後、7月には2,512件、そして8月には過去最高となる**9,421**件が単月で出願され、続く9月にも1,143件が記録されている¹。一企業の単月の国内出願件数として数千件規模に達することは前代未聞であり、通常の研究開発プロセスから自然発生する特許出願とは根本的に異なるメカニズムが働いていることを示唆している。

ソフトバンクグループの月間特許出願件数の推移 (2022年～2024年)



2022年後半から出願件数が増加し始め、2023年9月および2024年夏に数千件規模の歴史的な集中出願が行われたことがデータから確認できる。

データソース: ソフトバンクグループの特許出願件数の推移 (Uploaded Document)

2.3. 2025年の「大量出願のうわさ」の検証と公開制度のタイムラグ

ユーザーのクエリにある「2025年も大量出願のうわさがある」という点に関して、詳細な検証を行った。結論から言えば、このうわさは単なる憶測ではなく、特許庁の公開公報という形で紛れもない事実として確認されている。専門家の分析によれば、ソフトバンクによる「AI技術特許出願1万件宣言」はすでに現実のものとなっており、2025年1月からの集計において、公開された特許件数は1万件を優に突破している³。

ここで特許制度における重要なメカニズムを理解する必要がある。日本の特許制度において、出願された特許が一般に「公開」されるのは、出願日から起算して原則として18ヶ月後である。提供されたデータセット¹が示す2023年9月の8,959件という異常な出願の波は、18ヶ月後である2025年3月

から4月にかけて順次公開される計算となる。

実際に、特許公開データに基づく動向分析では、2025年4月に入り、その凄まじい規模が一般にも可視化された。4月1日には310件であった公開件数が、4月2日に1,808件、4月3日に1,794件、4月4日には1,514件と、連日にわたり1,500件を超える大量の特許が公開され続けている⁴。これは、2023年後半に行われた「絨毯爆撃的な出願」が、公開制度のタイムラグを経て、2025年の市場に一斉に姿を現した結果である。そして、2024年夏に行われた約12,000件(7月と8月の合計)の出願は、2026年前半にさらなる巨大な波として市場に公開されることが確定している。

2.4. 日本の知財ランキングにおける歴史的地殻変動

この規格外の出願ラッシュにより、日本の特許公開ランキングにおいて歴史的な地殻変動が発生した。長年にわたり公開ランキングの1位と2位を独占してきたのは、日本を代表する製造業であるトヨタ自動車とキヤノンであった。両社は国際的にも極めて強力な知財ポートフォリオを有しており、例えば2025年の米国特許商標庁(USPTO)における特許取得件数ランキングでは、キヤノンが世界第7位(2,623件)、トヨタ自動車が第8位(2,406件)にランクインしている⁵。

しかし、SBGはこの盤石の牙城を突如として崩し、2025年の日本国内における特許出願人ランキングで首位に躍り出たのである。分析によれば、2025年12月までSBGが国内1位の座を維持することは確実視されており、その出願規模は「ギネスブックに掲載されるレベル」とまで評されている³。

比較項目	従来の知財トップ企業(例:キヤノン、トヨタ)	ソフトバンクグループ(2023年~2025年)
主な出願領域	ハードウェア、光学技術、モビリティ、基盤要素技術	生成AI、ソフトウェア、AIエージェント、ビジネスモデル
出願ペース	通年を通じて安定的かつ継続的な出願	特定の月(2023年9月、2024年8月)への極端な集中出願
米国特許ランキング	世界トップ10の常連(数千件規模の登録) ⁵	過去は圏外。今後、米国への移行出願により急浮上の可能性
知財戦略の目的	自社製品の防御、クロスライセンス、競合他社の参入障壁	ASI時代のエコシステム支配、未来のビジネスOSの先回り独占

3. 規格外の出願を実現したメカニズム: 生成AIによる「知財の民主化」と量産体制

単月で9,000件超、あるいは1日で1,800件というレベルの特許出願を処理することは、従来の人海戦術的な知財実務の常識では説明がつかない。通常、1件の特許明細書を作成するためには、発明者とのヒアリング、先行技術調査、弁理士による高度な論理構築と文書作成が必要であり、膨大な時間とコストを要する。この物理的限界を突破するため、SBGは二つの革新的なメカニズムを導入している。

第一のメカニズムは、特許明細書の作成プロセスそのものへの生成AIの統合である。孫正義氏が関与する1,103件の特許データ分析によれば、SBGは生成AIを駆使することで、発明の発想（アイディエーション）からプロトタイプの設定、そして明細書のドラフト作成に至るまでの時間とコストを劇的に削減している⁸。これにより、専門知識の不足をAIで補完しつつ、大企業が手を付けていないニッチ領域から主要なプラットフォーム技術に至るまで、絨毯爆撃的に出願を行う「生成AIによる知財戦略の民主化」を実現したのである⁸。この手法は、知財戦略を「既存の技術を守る」ものから、「生成AIを用いて未来を創造し、先回りして仕様を定義する」ものへと姿を変えさせた⁸。

第二のメカニズムは、社内における爆発的なユースケースの創出と、外部専門家の極限的なスケールアップである。SBGは社内起業家育成プログラム「SoftBank InnoVenture」などを通じて、全社的に革新的なアイデアを創出する土壌を培ってきた⁹。さらに、社員の優れた発明を直接評価する「ソフトバンク特許賞（SoftBank Patent Award）」を設立し、経営陣主導で知財創出を奨励している¹¹。極めつけは、2025年夏に実施された全社的なAIプログラムである。このプログラムでは、技術部門に限らず全社員に対して日常業務用のAIエージェントを100個作成するよう求め、わずか10週間の間に社員の手によって250万個以上のAIエージェントが生成された¹²。実務から生まれたこの無数のAIユースケースが、そのまま特許出願の「種」として機能している。

加えて、1,000件レベルの出願を同日に行う事務処理能力は、出願を代理する複数の弁理士事務所の強大なキャパシティと、API等を介した特許庁システムへの自動化されたバルク申請体制が水面下で構築されていることを強く示唆している³。

4. 技術ポートフォリオの深掘り：公開特許群が示す「未来社会の設計図」

SBGの特許出願は、件数の多さだけでなく、その技術領域の広範さと特異性においても注目に値する。2025年4月4日に公開された1,514件の特許データをAIアプリケーションを用いて詳細に解析した結果、SBGの出願が単なる要素技術の防衛ではなく、次世代のビジネスおよび社会生活全般のインターフェースを定義する「未来図」の構築を目的としていることが判明した⁴。

技術テーマ	主な特許内容・応用分野	戦略的意図と影響
生成AIコア技術とLLM応用	テキスト生成（翻訳、コード作成、シナリオ）、画像・視覚生成（アバター、NFTアート）、音	基礎アルゴリズムの追求よりも、AIを実社会のインターフェースや業務プロセスに統

	声合成	合する実装力の独占 ⁴ 。
感情認識・感情エンジン	ユーザーの音声トーン、表情、生体情報、テキスト文脈からリアルタイムで感情を推定し、応答を動的に変化させる技術	メンタルヘルスケアや「グリーンフケア」など、極めてセンシティブな領域への介入。究極のパーソナライゼーションの実現 ⁴ 。
IoT・ウェアラブル連携	スマートグラス、スマートウォッチ、各種センサー群とAIモデルの統合	デジタル空間のAIエージェントが、現実世界（物理空間）のデータを取得・解析するための感覚器官の確保 ⁴ 。
企業統治と行動管理	情報漏洩リスクの高い社員のPC監視、業務中にさぼる営業マンの検知、インサイダー取引の未然防止システム	AIによる人間の行動評価とリスク予測。企業コンプライアンスにおける「監視者」としてのAIの役割の定義 ³ 。

特に物議を醸す可能性を秘めているのが、「企業統治と行動管理」に関する特許群である。情報漏洩を「やらかしそうな」社員を予測してPC挙動を重点監視するシステムや、営業担当者の「さぼり」を検知するシステム、金融機関におけるインサイダー取引を未然に防ぐシステムなどは、AIが単なる業務効率化のツールを超えて、人間の倫理的リスクを管理・統制する領域に踏み込んでいることを示している³。SBGは、将来的に世界中の企業が導入せざるを得なくなるであろうAIによるガバナンス機構の基本特許を、いち早く手中に収めようとしているのである。

5. 戦略の中核:「10億のAIエージェント」とCristal intelligence

SBGの特許大量出願は、無作為な技術の囲い込みではない。その背後には、孫正義氏が提唱する「ASI(人工超知能)」の実現に向けた明確なロードマップが存在する。

5.1. ASI(人工超知能)に向けたビジョンと進化論

孫正義氏は、AIが人類の英知の総和を1万倍上回る「ASI」が約10年以内に実現すると予測している¹³。AGI(人工汎用知能)が数年以内に人間の天才(アインシュタインやダ・ヴィンチ)のレベルに達した後、複数のAGIモデルが相互に刺激し合うことで、自律的な強化学習を繰り返し、自己進化を遂げてASIへと昇華するというビジョンである¹³。SBGの現在の投資、インフラ構築、および知財戦略はすべて、この「ASI時代のNo.1プラットフォームになる」という究極の目標からの逆算によって構築されている¹⁵。

5.2. Cristal intelligenceの全社導入とパートナーシップ

このビジョンを現実のものとするため、2025年2月、SBGはOpenAIとの間に極めて強固なパートナーシップを締結し、最先端のエンタープライズ向けAIソリューションである「Cristal intelligence」の開発と商業化に合意した¹³。

SBGはグループ全体でCristal intelligenceを展開するために、**年間30億ドル(約4,500億円)**という規格外の予算を投じることを発表した¹³。これは、世界初の「大規模なASI基盤の統合」と位置付けられている。さらに、日本市場向けにカスタマイズされた同AIを展開するため、OpenAIと50:50の出資比率で合弁会社「SB OpenAI Japan」を設立し、日本国内の主要企業に対する独占的なマーケティング権を確保した¹³。

SBG傘下のArmはCristal intelligenceを活用して半導体設計の生産性を向上させ、ソフトバンク株式会社(通信事業)は1億件以上のワークフローの自動化を計画している¹³。自社を巨大な「実験場」として最先端のAIシステムを稼働させ、そこで得られたノウハウを即座に特許化し、さらにSB OpenAI Japanを通じて他企業へ販売するという、完璧な垂直統合型のエコシステムが構築されつつある。

5.3. 自律型AIエージェントの自己増殖プロトコル

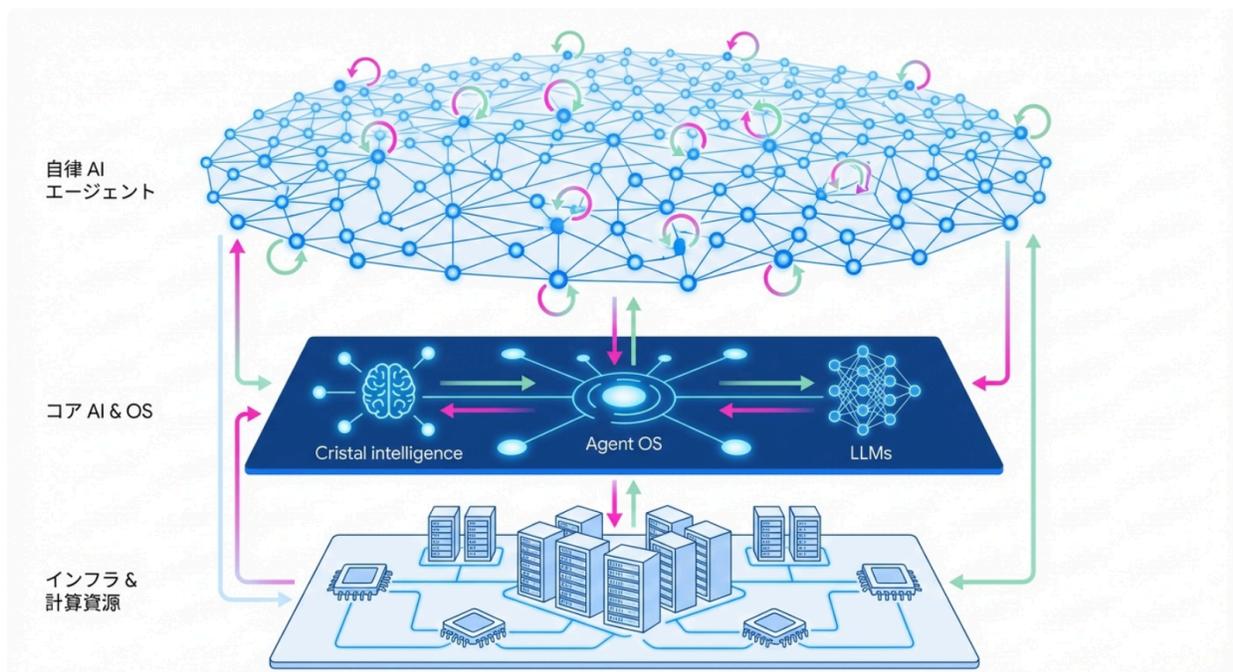
「SoftBank World 2025」での特別講演において、孫氏はグループ全体で「10億のAIエージェント」を創出する構想を発表した¹⁴。

これらのエージェントは、質問に答えるだけの受動的なチャットボットではない。24時間365日自律的に稼働し、技術、人事、財務などの各部門にわたって状況を監視、判断、そして行動を起こす能動的な主体である¹⁴。孫氏の構想では、人間一人当たり最低1,000個のエージェントが割り当てられ、それらを統括する「Agent OS」が機能する。

さらに重要なのは、これらのAIエージェントが「Chain of Thought(思考の連鎖)」を約100ステップまで拡張し、単なる検索結果の提示ではなく「知恵」を生み出す点である。エージェントは過去の交渉、会議、会話のすべてを記録する「生涯記憶(Life-long Memory)」を持ち、常にオンライン状態で稼働する。そして、人間のプロジェクトや会議を観察することで強化学習を行い、エージェント自身が新たなエージェントを創り出す「自己増殖と自己進化」を遂げるという概念が示されている¹⁴。

SBGが2023年から2025年にかけて出願した数万件の特許は、まさにこの「エージェント同士の通信プロトコル」「自律的なタスク実行の承認フロー」「OSレベルでの権限管理」といった、10億のエージェント社会を稼働させるための基本仕様を押さえるためのものと断定できる。

ソフトバンクグループが描く「ASI（人工超知能）エージェント・エコシステム」の階層構造



最下層の計算資源（Stargate/Arm基盤）の上に「Cristal intelligence」や「Agent OS」が構築され、その上で無数のAIエージェントが人間の業務を学習・代行し、自律的に自己増殖・進化していく未来図。

6. インフラストラクチャーとハードウェア層の物理的制圧

ソフトウェアおよび特許による論理層の支配は、それを処理するための莫大な計算能力（コンピュータ）と膨大なエネルギーインフラがなければ、砂上の楼閣に過ぎない。SBGは特許による防衛と並行して、グローバルな物理インフラの構築に対しても天文学的な資本を投下している。

6.1. Stargate Project: 5,000億ドル規模のインフラ覇権

2025年1月、SBGはOpenAI、Oracle、そしてUAEの投資ファンドMGXとともに、米国におけるAIインフラ構築の巨大プロジェクト「Stargate Project」を発表した¹⁷。

このプロジェクトは、今後4年間で米国に**5,000億ドル（約75兆円）**を投資するという歴史的規模のものである。これは現在のお金の価値に換算したNASAのアポロ計画（約2,800億～3,200億ドル）をはるかに凌駕する規模である¹⁸。最初の1,000億ドルは即座に展開され、最終的に10ギガワット（GW）という途方もない新規電力容量を持つ20の大規模データセンター網を米国内に構築することを目指している¹⁷。すでにテキサス州アビリーンにあるLanciumのクリーンキャンパスが最初のデータセンターの拠点として選定されており、同地だけで1.2GWの電力をホストする計画が進んでいる¹⁹。

このプロジェクトにおいて、SBGは財務的リーダーシップを担い、OpenAIが運用を統括する。初期の主要テクノロジーパートナーとして、Microsoft、NVIDIA、そしてSBG傘下のArmが参画している¹⁷。注目すべきは、MicrosoftとOpenAIの既存のパートナーシップに対する影響である。これまでMicrosoftはOpenAIのIPへのアクセスやAzure APIの独占権を有してきたが、Oracleの直接的な関与とStargate Projectの進行に伴い、新たなキャパシティに対するMicrosoftの独占権は「第一拒否権」へと調整された²⁰。これは、AIインフラの主導権がMicrosoft単独支配から、SBGやOracleを含む連合体へと移行しつつあることを示している。

6.2. 半導体エコシステムの掌握：Project IzanagiとArmの進化

データセンターを稼働させる心臓部である半導体分野においても、SBGは支配を強めている。孫氏は、NVIDIAに対抗するAIチップ業界の巨人を創出するための1,000億ドル規模の構想、コードネーム「Izanagi(イザナギ)」を推進していると報じられている²⁵。この構想には、SBGが買収した英国のAIチップメーカーであるGraphcoreの技術が組み込まれ、2025年春にプロトタイプチップを開発し、秋には量産を開始する計画が含まれている²⁵。

また、SBGの中核企業であるArmの技術は、省電力かつ高効率な処理が求められるAIエージェント社会の基礎レイヤーを形成している¹⁴。SBGはさらに、高機能・省電力AIプロセッサを専門とするAmpere Computingへの投資も行っており²⁶、単なる汎用GPUに依存しない、独自のAIインフラストラクチャ網を構築しようとしている。

6.3. ロボティクスによる「物理世界」へのASI実装

ASIの知能は、データセンターのサーバーラックの中に留まるものではない。孫氏のASIビジョンは、ASIを搭載した「スマートロボット」が、製造、輸送、建設、さらには家事といった物理的タスクを人間の代わりに実行する世界を想定している¹³。

これを裏付けるように、SBGは2021年から2024年にかけて、ABB Robotics(産業用ロボット)、AutoStore(倉庫自動化)、Agile Robots(協働ロボット)、Fourier(ヒューマノイド)といった広範なロボティクス分野への投資を加速させてきた¹³。特にABB Roboticsへの投資は、単なる資金提供ではなく戦略的シナジーを目的としており、Armのチップ技術、OpenAIの推論モデル、そしてSBGが保有する通信・制御特許群を統合し、産業用ロボットから汎用ヒューマノイドに至るまでの物理的インターフェースを制圧する狙いがある²⁷。

7. 財務的脆弱性と地政学的リスクの交錯

この野心的な知財・インフラ戦略は、SBGに前例のない成長機会をもたらす一方で、極めて高い財務的リスクと複雑な地政学的課題を抱え込んでいる。

7.1. 巨額投資に伴う財務リスクと格付けの悪化

AI領域への集中投資は、SBGの財務基盤に大きな負担をかけている。金融分析機関のS&P Globalは、SBGの長期発行体格付け(BB+)の見通しを「安定的」から「ネガティブ」に引き下げた²⁸。

その主要な根拠は、OpenAIに対する過度なエクスポージャーである。SBGはすでにOpenAIに対して約400億ドルの投資を完了したと報じられており²⁹、さらに追加で300億ドル規模の資金を投入する計画がある²⁸。S&Pの分析によると、この追加投資によってOpenAIはSBGの投資資産全体の約30%を占めることになり、Armと並ぶ最大級の集中リスクとなる²⁸。

S&Pは、OpenAIやSambaNova、Wayve、ABB Roboticsといった未上場のプライベート企業群への集中投資が「重大なAIイノベーションリスク」にSBGを晒していると指摘している²⁸。技術の進化スピードが速すぎるAI業界において、投資先モデルが陳腐化するリスクは常に存在し、同社のLTV（Loan-to-Value: 保有資産に対する純負債の割合）を悪化させる懸念が強まっている。SBGの経営陣は、これらの方針がASI時代におけるNo.1プラットフォームプロバイダーになるための不可欠な戦略的財務支援であると主張しているが¹⁵、莫大な先行投資を回収するまでには、市場の変動に耐える財務規律の維持が厳しく問われる。

7.2. 知財訴訟リスクの顕在化

特許を大量に保有することは、必然的に競合他社との知財紛争の火種を抱え込むことを意味する。すでにSBGの要であるArmは、Qualcommおよび同社が買収したNuviaとの間で、ライセンス契約と特許権侵害を巡る重大な訴訟を抱えている¹⁶。このような知的財産権の行使に伴う訴訟は、多大な弁護士費用を要するだけでなく、経営陣や技術トップの注意を通常の業務から逸らす要因となり、SBGグループ全体の収益性に直接的な打撃を与えるリスクを内包している。SBGが2023年以降に大量出願した特許が権利化された暁には、他社のAIサービスに対する権利行使やクロスライセンス交渉が激化することが予想される。

7.3. AI覇権を巡る国家間競争と地政学の最前線

SBGの戦略は、もはや一民間企業の枠を超え、米国の国家戦略と不可分に結びついている。Stargate Projectの発表が米国のホワイトハウスで行われ、当時のトランプ大統領が同席したことは、その象徴である²⁰。

トランプ大統領はこのプロジェクトが「数十万の米国人の雇用を創出し、米国の再工業化を支援し、国家安全保障を保護する戦略的能力を提供する」と絶賛した²¹。現在、AI技術は単なる産業ツールではなく、軍事戦略、サイバーセキュリティ、そして経済支配を左右する地政学的な最重要兵器となっている。米国と中国の間で半導体輸出規制やAI開発競争が激化する中、SBGは5,000億ドルという民間インフラ投資を米国本土で展開することで、米国政府と極めて強固な政治的・経済的同盟を結んでいる¹⁸。

同時に、SBGが「OpenAI for Countries」イニシアチブなどを通じて、世界の各国家に対して「民主的なAIインフラストラクチャ」の構築支援を申し出ている点も見逃せない³²。これは、米国製インフラとSBGが保有する特許網（OS層の仕様）をパッケージ化して他国に輸出することで、実質的に世界のAIエコシステムを米国とSBGの連合体で支配する構図を目指していると解釈できる。日本市場においては、SB OpenAI Japanを通じて国内の主要インフラや企業にCristal intelligenceを浸透させることで、情報革命のインフラストラクチャーを完全に掌握する狙いがある。

8. 結論: 情報革命の「資本家」から、未来の「ルールメイカー」への変貌

ソフトバンクグループが2023年から2025年にかけて引き起こした数万件に及ぶ「特許の異常出願」は、単独の防衛的事象として捉えるべきではない。それは、同社が「有望な企業に投資する資本家 (Vision Capitalist)」という従来の立場から脱却し、来るべきASI(人工超知能)時代において、インフラ、ハードウェア、オペレーティングシステム、そしてアプリケーションのすべての階層を垂直統合的に支配するための「法の基盤(特許網)」を構築するプロセスの顕在化である。

データの詳細な分析を通じて得られた最も重要な洞察は以下の通りである。

1. 知財創造プロセスの破壊的革新: 生成AIを用いて発明を量産し、短時間で数万件の特許を出願するSBGの手法は、世界の知的財産管理の常識を完全に破壊した。競合他社が手作業で特許網を構築している間に、SBGはAI自体の力を使って、AIの未来のユースケース(感情認識、行動監視、自律エージェント間の通信プロトコルなど)を網羅的かつ絨毯爆撃的に権利化している。
2. 完全な垂直統合型エコシステムの完成: 5,000億ドル規模のStargate Projectによるインフラ支配、Project Izanagiによる半導体開発、年間30億ドルを投じたCristal intelligenceの全社導入、そして「10億のAIエージェント」の展開により、ハードウェアからソフトウェア、そして特許に至るまで、他社の追随を許さない巨大なエコシステムが構築されつつある。
3. 地政学的リスクを内包した究極の賭け: S&Pに警告されるほどの財務的集中投下と、米国政府と密接に連携したインフラ戦略は、SBGが「グローバルなAI覇権の獲得か、さもなくば深刻な財務危機か」という究極の賭けに出ていることを示している。

2025年以降、ソフトバンクグループから公開され続ける膨大な特許群は、今後のあらゆる企業がAIビジネスを展開する上で回避不可能な「地雷原」あるいは「通行料を徴収される関所」となる可能性が極めて高い。同社は、情報革命の果実を享受する単なる投資家から、情報革命そのものの設計図とルールを所有する「独占的プラットフォーマー」へと変貌を遂げつつある。この動向は、単なる一企業の事業戦略を超えて、知財、テクノロジー、そして国家の安全保障の力学を根底から書き換える歴史的転換点として、世界の産業界が最も警戒と注視を払うべき対象である。

引用文献

1. ソフトバンクグループの特許出願件数の推移 graph - 2026-03-19T100843.145 20260319.csv
2. 2023年の特許出願は30万件超、これは良い兆候かもしれない | 知的財産と調査, 3月19, 2026にアクセス、<https://ameblo.jp/123search/entry-12848713553.html>
3. ソフトバンク、AI技術特許出願1万件宣言は“本当だった！”(4), 3月19, 2026にアクセス、<https://www.patentyouridea.tokyo/post/%E3%82%BD%E3%83%95%E3%83%88%E3%83%90%E3%83%B3%E3%82%AF%E3%80%81%E3%81%EF%BD%81%EF%BD%89%E6%8A%80%E8%A1%93%E7%89%B9%E8%A8%B1%E5%87%BA%E9%A1%98%EF%BC%91%E4%B8%87%E4%BB%B6%E5%AE%A3%E8%A8%80%E3%81%AF-%E6%9C%AC%E5%BD%93%E3%81%A0%E3%81%A3%E3%81%9F%EF%BC%81-%EF%BC>

[%88%EF%BC%94%EF%BC%89](#)

4. ソフトバンクの1514件の特許を調べてみよう(2025年4月4日公開分 ..., 3月 19, 2026にアクセス、https://note.com/ip_design/n/n629c6af6bede
5. Canon ranked seventh in U.S. patent ranking, now in the top 10 for 42 years running, 3月 19, 2026にアクセス、
<https://global.canon/en/news/2026/20260116-2.html>
6. U.S. Patent Applications Decrease Dramatically One Year After Reaching Record High, Falling 9%; 2025 U.S. Patent Grants Also Down - IFI Claims, 3月 19, 2026にアクセス、
<https://www.ificlaims.com/news/u-s-patent-applications-decrease-dramatically-one-year-after-reaching-record-high-falling-9-2025-u-s-patent-grants-also-down/>
7. Top 10 U.S. Patented Companies for 41 Consecutive Years, No. 1 among Japanese ... - Canon, 3月 19, 2026にアクセス、
<https://global.canon/en/intellectual-property/news/20250115.html>
8. NEWS | 孫正義が描く未来図：生成AI×特許戦略の最前線 - LeXi/Vent, 3月 19, 2026にアクセス、<https://lexi2vent.com/posts/y3Vo89M4>
9. SoftBank Group Report 2024, 3月 19, 2026にアクセス、
https://group.softbank/system/files/pdf/ir/financials/annual_reports/annual-report_fy2024_en.pdf
10. Sustainability Report 2022 - ソフトバンク, 3月 19, 2026にアクセス、
https://www.softbank.jp/en/corp/set/data/sustainability/documents/reports/pdf/sbkk_sustainability_report_2022_en.pdf?202504_01
11. SoftBank Corp. Integrated Report 2025, 3月 19, 2026にアクセス、
https://www.softbank.jp/en/corp/set/data/ir/documents/integrated_reports/pdf/sbkk_integrated_report_2025_en.pdf
12. Inside SoftBank Corp.'s Massive AI Project: 2.5 Million Agents Created Company-Wide, 3月 19, 2026にアクセス、
https://www.softbank.jp/en/sbnews/entry/20251217_01
13. OpenAI and SoftBank Group Partner to Develop and Market ..., 3月 19, 2026にアクセス、
https://group.softbank/en/news/press/20250203_0
14. グループ全体で10億 AI agents を作る：SoftBank World 2025 孫 ..., 3月 19, 2026にアクセス、
<https://ai.softbank/insights/011/>
15. SoftBank Group Report 2025, 3月 19, 2026にアクセス、
https://group.softbank/en/ir/financials/annual_reports/2025
16. SoftBank Group Report 2025, 3月 19, 2026にアクセス、
https://group.softbank/media/Project/sbg/sbg/pdf/ir/financials/annual_reports/annual-report_fy2025_06_en.pdf
17. The Stargate Project | InterGlobix Magazine, 3月 19, 2026にアクセス、
<https://www.interglobixmagazine.com/the-stargate-project/>
18. The Stargate and the Race for AI Dominance - Modern Diplomacy, 3月 19, 2026にアクセス、
<https://moderndiplomacy.eu/2025/02/18/the-stargate-and-the-race-for-ai-dominance/>
19. Lancium and the Stargate Project in Abilene, TX - Energy Systems Integration

- Group (ESIG), 3月 19, 2026にアクセス、
https://www.esig.energy/wp-content/uploads/2025/05/ESIG_LLTF_PresentationLancium.pdf
20. OpenAI and Softbank Launch \$500B AI Data Center Project | Shelly Palmer, 3月 19, 2026にアクセス、
<https://shellypalmer.com/2025/01/openai-and-softbank-launch-500b-ai-data-center-project/>
 21. SoftBank, OpenAI, Oracle and MGX commit to \$100B for Stargate AI infrastructure, 3月 19, 2026にアクセス、
<https://www.spglobal.com/market-intelligence/en/news-insights/research/softbank-openai-oracle-and-mgx-commit-to-100b-for-stargate-ai-infrastructure>
 22. 'Stargate' Squares Some AI Circles - Spyglass, 3月 19, 2026にアクセス、
<https://spyglass.org/project-stargate-agi-openai/>
 23. How The Stargate Project is Impacting Data Center Hardware Manufacturing - LightGuide, 3月 19, 2026にアクセス、
<https://www.lightguidesys.com/resource-center/blog/how-the-stargate-project-is-impacting-data-center-hardware-manufacturing/>
 24. Stargate AI: further reacceleration of the AI compute wave - Janus Henderson Investors, 3月 19, 2026にアクセス、
<https://www.janushenderson.com/en-sg/investor/article/stargate-ai-further-reacceleration-of-the-ai-compute-wave/>
 25. Masayoshi Son's 10000 IQ gamble: buying a God-like AI for humanity - Medium, 3月 19, 2026にアクセス、
<https://medium.com/@genaiassembling/masayoshi-sons-10-000-iq-gamble-buying-a-god-like-ai-for-humanity-9bc50268fed0>
 26. SoftBank Group Report 2025, 3月 19, 2026にアクセス、
https://group.softbank/media/Project/sbg/sbg/pdf/ir/financials/annual_reports/annual-report_fy2025_en.pdf
 27. SoftBank's \$5.4B Robotics Bet: Acquiring ABB to Power Physical AI - Interact Analysis, 3月 19, 2026にアクセス、
<https://interactanalysis.com/insight/softbank-abb-robotics-ai-investment/>
 28. SoftBank credit outlook hit after betting \$30bn more on OpenAI - Silicon Republic, 3月 19, 2026にアクセス、
<https://www.siliconrepublic.com/business/openai-softbank-sp-financial-analysis>
 29. OpenAI's Stargate Project: A Guide to the AI Infrastructure - IntuitionLabs, 3月 19, 2026にアクセス、
<https://intuitionlabs.ai/pdfs/openai-s-stargate-project-a-guide-to-the-ai-infrastructure.pdf>
 30. SoftBank Completes \$40 Billion OpenAI Deal for Stargate Push - Times Of AI, 3月 19, 2026にアクセス、
<https://www.timesofai.com/news/softbank-reportedly-completes-40-billion-investment-in-openai/>
 31. Risk Factors | SoftBank Group Corp., 3月 19, 2026にアクセス、
https://group.softbank/en/ir/investors/management_policy/risk_factor
 32. OpenAI's Stargate Project Aims to Build AI Infrastructure in Partner Countries

Worldwide, 3月 19, 2026にアクセス、

<https://www.infoq.com/news/2025/05/stargate-openai-for-countries/>